

技術士 2 次試験に合格して



佐藤 亮介

(さとう りょうすけ)

勤務先

北電総合設計株式会社

土木部 電源開発技術室

〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 3 丁目 1 番地 1 北電興業ビル

TEL 011-222-4420 FAX 011-222-4426

E-mail sato-ryou@hokuss.co.jp

■ 専門：建設部門(電力土木)

1. 自己紹介

私は 1980 年生まれで、高専、大学と土木工学を学びました。その後、北電総合設計(株)に入社し、主に水力発電所の新設やリプレースに係る計画・設計に従事してきました。水力発電所の新設にあたっては、開発地点選定、発電諸元設定、事業性評価、水路構造物の水理・構造設計や関連設備設計、施工・仮設計画策定、各種許認可申請書・協議資料の作成のほか、測量・水文・地質・環境調査の実施、機械・電気・建築分野との連携が必要となります。

このように、水力発電所の新設は多岐にわたる分野で多忙を極めますが、携わった発電所が運転開始した際は感慨無量であり、日々奮闘しながらもやりがいのある仕事と考えております。

2. 技術士試験について

(1) 受験動機

「技術士」は、建設コンサルタントに入社し、設計に携わるものとして、必ず取得したい資格と考えていました。1 次試験は入社後すぐに取得しましたが、その後は仕事を言い訳に、2 次試験に向き合ってきませんでした。また、グループ会社や関連企業の互いに人となりを知っている方々と仕事をする機会が多く、実務的に資格の重要性を強く感じることなく過ごしてきました。しかしながら、30 代半ばころから、官庁やグループ外の民間会社等の方々と仕事をする機会が多くなり、資格要件はもちろんのこと、顧客の信頼という観点からも、「技術士」の必要性を強く実感しました。これを機に、真剣に 2 次試験に取り組むことを決意しました。

(2) 筆記試験

合格を掴み取るまでに 5 年の月日を要しました。過去 4 回ともに筆記試験で不合格でした。振り返ると、3 回目までは、試験に対する取り組み姿勢の

甘さが要因だったと考えます。「自分の専門分野であれば、これまでに得てきた知識・経験で概ね解答できる」、「何回か試験を受ければ、いつか受かる」と考えてました。結果、当然のことながら不合格が続きました。このままでは合格を掴めないと実感した 4 回目は、心機一転して、設問別・テーマ別にキーワード整理、解答作成、先輩技術士の添削依頼、通信教育等に取り組み、可能な限り、勉強時間の確保に努めました。結果、「必須：B、選択：A」で不合格となり、非常に悔しかったですが、同時に試験の取組方法に手応えを感じることもできました。

5 回目は、同様の試験対策に加え、「なぜ必須 B 判定だったのか、なぜ選択 A 判定だったのか」と、試験結果の分析を綿密に行いました。また、改めて、技術士法・倫理、コンピテンシーの定義等を理解した上で、試験に臨みました。結果、試験対策の功を奏して、ようやく筆記試験に合格できました。

(3) 口頭試験

先輩技術士より、「実務経験証明書(以下、「経歴書」といいます。)が非常に重要」と言われ続け、繰り返し添削を受けました。受験申込時は筆記試験を乗り越えることが優先で、その先の口頭試験対策は二の次でした。実際に口頭試験の切符を掴み、試験対策を行った際に、経歴書の重要性を実感し、先輩技術士の言葉が身に染みて理解できました。練り上げた経歴書と、これまでに得た知識・経験の棚卸整理により、無事に口頭試験を終えることができ、悲願の「合格」を掴み取ることができました。

3. 今後について

技術士を取得し、これまで以上に、自己研鑽を行い、技術者のスキル向上に精励する所存です。

最後に、長きにわたりご指導、応援いただきました皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。